

様式2 **令和元年度 清瀬市立清瀬第三小学校 学校評価表**

<b>学校教育目標</b>	<b>育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動</b>
○よく考え やりぬく子ども(重点目標) ○やさしく 思いやりのある子ども ○明るく 元気な子ども	【育成を目指す資質・能力】 「協働問題解決能力」 ○基礎的な力(言語、数量、情報スキル) ○他者と共に考える力(協働問題解決力、メタ認知) ○他者と共生できる力(人間関係形成力) ○社会の中で実践する力(社会参画力、自律的活動力)
<b>目指す学校像(ビジョン)</b>	【特色ある教育活動】 重点1 「協働問題解決能力」を中心に学力の向上を図る 重点2 他者と共生できる豊かな人間性を育む 重点3 「協働問題解決能力」を育む学校支援本部の活動を保障し、地域に開かれた学校づくりを推進する。
【目指す学校像】 地域の風が行き交う学校 ◎「共に学んでよかった、明日も学びたい」といえる学校 【目指す児童・生徒像】 「他者と協働して主体的に問題を解決しようとする子ども」 【目指す教師像】 ◎進んで学び合い、責任をもって教育活動を遂行する教師 ・児童一人一人と信頼関係を築き、個々のよさを引き出す教師 ・保護者や地域と連携する教師	

・「誰にでも分かる授業づくり」の視点で三小スタンダードをもとに指導や教室環境の整備を充実させることができた。協働問題解決能力の向上をめざし、校内研究で算数の研究に取組み、一定の成果をあげることができた。サマースクールの開催など学校支援本部の支援による教育活動もさらに充実した。課題としては、校内研究での昨年の成果を基に、算数だけでなく他教科においても、これからの未来社会を生きる力、すなわち協働問題解決能力を育てていくことが挙げられる。そのためには学校支援本部をはじめとする保護者・地域や専門家の方々と連携し、教育活動全体を通して基礎的なスキル、思考力・判断力・表現力、人間関係形成力、社会的実践力などの力を意図的・計画的に育むことが必要である。

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
		評価		評価	コメント
		取組指標	成果指標		
確かな学力の向上	1時間の学習展開の中で全員が自分の考えを表現する場面を作り、全員参加の授業をつくる。	3	3	3	学習展開の中で「表現すること」「相手にわかりやすく伝えること」が苦手な児童に対し、具体的にはどのような配慮がされているのか。例えば、大人数の前での発言が苦手な児童には、少人数でのグループに分けて話し合いをもち、友達同士での発表をみたりするの工夫を夫だとする。
	どの子どもすすんで解決しなくなる課題づくりやグループ学習の方法を工夫し、考えを広げたり深めたりできる授業をつくる。	3	3	3.5	教員の授業力が期待されるころだと思う。一人一人の記述や発言を見聞きし、よいと思うものはみんなで見出し、取り上げていくことは素晴らしい。なぜ良いのか、どんなところが良いのかを考えることで、児童が気づくことが大事である。
豊かな心の育成	「挨拶と返事」が確実に身につくように、学年・学級で工夫して取り組む。児童会での取組を強化し、児童が自分から挨拶できるよう意識の向上を図る。	3	2	3	学校だけでなく家庭との連携が必要である。あいさつは人間関係の始まり。児童にとってよい見本はあるのか。先生同士が気持ちのよい挨拶はできているだろうか。挨拶は「しろ！」と言ってさせるものではなく、自らするものである。
	どの子ども学級に居場所があるように、いじめ未然防止の取組を学年毎に工夫して行う。	4	3	3	児童は、家庭の中、SNS、YouTube等様々な環境の中で過ごしている。学校全体での情報共有はとても大切である。問題解決にスムーズに対応してほしい。いじめを未然に防止するには、その気持ちのもっていき方をコントロールできるようにしてほしい。(自己肯定感を高める、アンガーマネージメントなど)
健やかな体の育成	体力向上旬間の取組では、個人や学級毎に目標数値を掲げて取り組む。	3	3	4	今年度の時短運動会の実施は合理的で効率的な取り組みでよい判断だったと思う。以前とは異なる現在の気候や環境、生活スタイルに合わせて行ったことは評価できる。短縄など、時期ごとに取り組む運動では、児童に意欲をもって目標を達成できるような助言を行っていることは良いことだと思う。
	「早寝早起き朝ごはん」点検の結果等を使って、児童と保護者に対して生活習慣への啓発を工夫して行う。	4	3	4	「早寝早起き朝ごはん」点検は何年も前から取り組んでいる。長期休業明けに点検カードに取り組むことで、生活のリズムが整うきっかけになっている。基本的な生活習慣は家庭との連携がとれないと難しい。引き続き継続してほしい。
本校の特色①	縦割り活動、ボランティア活動、異学年交流では目的を明示し事前指導を丁寧に行い、成功体験を積ませる。	4	3	4	三小のたてわり班活動、ボランティア活動、異学年交流の取り組みは良い効果が生まれていると考える。高学年としてのリーダー的な立場、中学年のリーダーになるための心構えの準備や低学年への配慮、低学年の高学年に対する尊敬の心の育成など成果が大きい。さらに充実させてほしい。
	学年ごとに地域や保護者等との参画型授業・出前授業等を計画的に工夫して行う。	4	3	4	三小の目指す学校像の一つ「地域の風が行き交う開かれた学校」という特色は実現できていると思う。学校全体で各学年ごとに計画的に授業や授業以外の活動にうまく取り入れ、学校支援本部と連携しながら特色を生かしてほしい。
本校の特色②	計画的に俳句作品の掲示や発信を行い、コンクールの応募には全児童が取り組む。	4	2	3	俳句については、清瀬では石田波郷俳句大会もあり、市内の学校で盛んになっている。三小では、地域の老健施設と「俳句おたより便」の活動をしているので、こちらも拡大していければと考えている。支援本部が展示先の開拓することも可能。俳句作りを通して季節を感じることはとても大切である。
	読書への興味を高める取り組みを、学期毎・学年毎に計画して実施する。	4	4	4	三小の図書館は使いやすく雰囲気もあたたかい場所である。学期に一度の中休みおはなし会、各クラスでの朝の読み聞かせ、年間100冊の貸し出し目標を達成する児童もたくさんいることなど、本が身近な存在になっていると思う。